提言

半径数キロから世界に繋がる道

五城目町地域おこし協力隊　丑田 香澄（平成15卒）

「今まで私、都会に行った友人を羨ましく思っていた」。地域のママ友はそう言った。でも、そんな秋田を自ら選び都会からやってきた起業家らがいて。「サッカーチームだけは無いから結成！」など、不満を言う暇があったら、あるものに目を向け、無いものは作っちゃおう♪という自由な姿を見て、ハッとしたそうだ。「都会に憧れる時代は終わり。ここでやりたいことをやる！」。そう宣言した彼女は、生き生きとマイプロジェクトを始めた。

実は彼女、朝市の高齢化問題が長年気になっていたという。個人で手がけるにはあまりに大規模だし、行政の役割だと思っていたけれど。心の底の想いを大切に、再び若者や子どもが集まる風景を夢見て仲間を集めてみる、と。そうして踏み出した一歩は大きなうねりとなり、開催をサポートする日曜の『朝市プラス』は大盛況だ。県内各地から出店者や来場者が集い、賑やかな子どもたちの声が響く。

「ごじょうめ朝市plus+」より。
町に遊びにいらしてくださいね!

彼女だけではない。他にも「昔から夢見た店を、この町で始める！」「農家だけれど本当はこんな商品を出したかった」と、挑戦する町民が一人、また一人と誕生。心のワクワクに従う人が増え、ワイワイ広がる。自分を生かしながら、皆が幸せになるような循環が広がっている。

そうした空気は伝播するのだろうか。小さな町ながら、廃校となった小学校を利用した町のオフィスに入居するベンチャーは現在13社、驚くことに秋高の後輩たちまで移住し始めた。仲間が運営する茅葺き古民家の農家民宿『シェアビレッジ町村』では「ベトナム人学生、子連れフランス人絵本作家、20代青年、秋田弁の80代おばあちゃん」といった異色の組み合わせで、だまこを丸めて交流する様子も珍しくなくなってきた。

縁がうまれ、東大で持続可能社会を研究する院生と地域の高校生との連携授業『ソーシャルラボ』も始まった。世界一の少子高齢化が進む課題先進地だからこそ、今ここで糸口が見えたら、同じ問題を抱える諸外国に秋田モデルを示すことができる！そんな、悲壮感ではなく希望から始まる事業の今後は楽しみだ。

18歳の私は「秋田＝好きだが出ていく地」と、都会や海外に飛び出してこそ、やりがいのある仕事や幸せな人生があると信じていた。Aターンを決めた時ですら、田舎の良さを享受する分、刺激が減るのは仕方ないと思っていた。

いま私は、日暮れと共に仕事を終えて、温泉に浸かり、新鮮素材で仲間と宴をし、天の川を眺めて。当たり前に支えシェアし合う子育て環境に恵まれて。好きな地に住んで豊かさを味わいながらも、世界から秋田に人が集うようなユニークな道もあり得るのだと体感する毎日だ。

高校時代には考えもしなかった状況が今ここで起きているように、この先も一人一人が時代の変化を楽しみ、草の根からイマジネーションを持って歩んでいくことができたら、きっと素敵な未来が待っている。そんな気がする。もしかしたらそれは、学力一辺倒ではない「文武両道」、おのおのが自分らしく輝く「自主自律」の精神そのものかもしれない。

Profile

うしだ・かすみ／秋田市出身（旧姓石岡）。慶応義塾大学SFC卒。IBM、東日本大震災被災妊産婦支援事業『東京里帰りプロジェクト』事務局長を経て、2012年、出産後の母親を地域で支える職業「産後ドゥーラ」養成等を手がける『（社）ドゥーラ協会』を共同設立、現在理事。2014年、一家で秋田へ。五城目町地域おこし協力隊として活動中。＊Facebook『こさけ！五城目』

柏木歯科
柏木 喜広
（昭和42年卒）
秋田市広面土手下41−1
TEL 018−832−9162

祈る心をたいせつに
土崎神明社
宮司 伊藤 茂樹
（昭和42年卒）
秋田市土崎港中央3丁目9−37
TEL 018−845−1441
FAX 018−845−2417

ボールペンから事務機まで
有限会社 金子
代表取締役社長 金子 真悟
（昭和42年卒）
本社／秋田市山王五丁目12-21
TEL 862-5371㈹ FAX 864-4624
大町店／秋田市大町三丁目4-45
TEL 863-9009 FAX 893-3006

一般土木・鳶土工事・仮設資材一式
一般貨物自動車運送事業
株式会社 三栄建設
代表取締役 佐藤 充夫
（昭和42年卒）
〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地130番地1
TEL 018-839-3095㈹・FAX 018-839-3866